

授業概要

経済学は非常に大きな学問体系をなしています。この講義では、私たちの日々の暮らしや生活を支える活動（経済活動とよんでいます）の担い手である企業を対象とした経済学、つまり企業経済学を解説します。はじめに、資本主義経済の形成と発展に伴って経済学が生まれ、次いでこの経済学の中に企業経済学が誕生したことを講義します。次に、企業経済学とは何かを、日本の企業を対象として具体的に解説します。日本企業の海外進出、外国での活動を、主としてアメリカと中国での活動を取り上げて説明し、グローバル時代の日本企業の活動を講義します。

授業計画

第 1 回	はじめに一企業経済学を学ぶ
第 2 回	イギリス資本主義の形成とアダム・スミスの『諸国民の富』
第 3 回	大企業時代の到来と企業経済学の誕生
第 4 回	グローバル時代の企業経済学と日本企業
第 5 回	第 2 次大戦後の日本企業の国際展開
第 6 回	日米貿易摩擦と日本企業のアメリカでの現地生産
第 7 回	日本的生産方式とアメリカ的生産方式（1）－サプライヤーとの取引関係
第 8 回	日本的生産方式とアメリカ的生産方式（2）－工場従業員の技能・育成
第 9 回	中間試験
第 10 回	中国経済の「改革開放体制」への移行と日本企業の対中進出
第 11 回	中国の「社会主義市場経済」と日本企業の現地活動の進展
第 12 回	21 世紀初頭以降の中国経済の変貌と日本企業
第 13 回	現段階の中国における日本企業の活動
第 14 回	中国における日本企業の今後の課題
第 15 回	全体のまとめ
第 16 回	学期末試験

到達目標

- ① 経済活動とその担い手である企業について具体的な事実を踏まえて理解します。
- ② 日本の経済と企業の特徴などについて、外国経済および外国企業との多比を踏まえて理解します。
- ③ 今日の経済と企業について、自ら学ぶべき問題や課題を発見出来るようになることを目標とします。

履修上の注意

- ① 各章・節の要点を記載したレジュメ、および資料（統計、図表など）を出席者に配布します。講義は、スライドを活用しながら、解説します。なお、毎週、出席者全員にその日の授業についての「質問・意見」を提出してもらいます。その中で特に重要と思われた疑問・論点などを選択して、翌週の講義の際に回答ないし補足説明を行います。
- ② 病気などの場合を除いて、毎回欠かさず出席してください。病欠、遅刻（電車の遅延などによる）の場合は証明書を提出してください。

予習・復習

講義に出席するに先立ちレジュメを読み、予習してください（第 1 回講義を除く）。講義中はできるだけ多くノート（メモ）を取り、レジュメに書かれた要点と合わせてよく読み直し、復習してください。

評価方法

中間試験 40%、学期末試験 40%、授業への参加（「質問・意見」の提出とその内容）20%、によって評価します。

テキスト

教科書は使いません。私が作成したレジュメ、資料を用いて解説します。参考文献は講義中に紹介します。

授業概要

経済学について理解するために、経済学とは何か、経済学とはどのような学問かを知り、資本主義経済の歴史と経済学の理論の基礎を学ぶ。また現実の経済の時事問題に対して関心を深めることを目的とする。

授業計画

第 1 回	経済学とは何か(ガイダンス)
第 2 回	市場経済と社会のとらえ方
第 3 回	経済学の始まりと系統図
第 4 回	アダム・スミスの経済思想
第 5 回	古典派経済学の系統図
第 6 回	経済学の主流派と異端派(反主流派)
第 7 回	福祉国家と経済学
第 8 回	授業内中間試験
第 9 回	貨幣の機能
第 10 回	富としての貨幣
第 11 回	貨幣数量説と貨幣経済論
第 12 回	第二次世界大戦後の金融システム
第 13 回	国際通貨システムと貨幣
第 14 回	現代経済と経済学
第 15 回	経済学と私たちの暮らし
第 16 回	期末試験

到達目標

経済学とはどのような学問なのか、広い視野に立ち経済学の変遷と人々の暮らしを関連させながら経済学の目的を理解し学びます。経済関連の時事問題やニュースなどに関心を持ち、ある程度自分で理解し、判断できるようになることが目標です。

履修上の注意

Teams の資料やノートなどを中心に復習すること。

予習・復習

授業ノートの整理をしておくこと。

評価方法

期末試験(50%) 中間試験((40%) 小テストかレポート課題(10%)

テキスト

特に定めない。参考文献は授業中に指示する。